

スノーマス・ヴィレッジ、環境配慮のリゾート開発に着手 ～東京ドーム7個分の敷地でサステイナブルなリゾート開発を提唱、実践～

アスペンから山を一つ隔てた場所にある、コロラド州内でも屈指の風光明媚なスキーリゾート、スノーマス・ヴィレッジはこのたび、現地の開発業者である RelatedWestpac 社と共同で、32 ヘクタール（東京ドーム約7個分）という広大な敷地を使い、「周辺街区開発のための LEED 認定基準」を採用したリゾート再開発事業に着手しました。再開発第一段階として来年末までに、グリーン・ビルディングの基準を満たしたオーナー制コンドミニウム、230 平方メートルの敷地面積を誇るキッズセンター、ホテル、会議施設、レストラン・カフェなどの商業施設等からなるベース・ヴィレッジが誕生する予定です。

「周辺街区開発のための LEED 認定基準」とは、コミュニティを巻き込んだ形でサステイナブル（持続可能）な環境作りのために、開発課程においてどの程度の環境に対する配慮がなされているかをポイントで評価する指標で、米国を中心に世界に広がる国際的なベンチマーク指標、US ビルディングカウンシルが定める LEED（リーダーシップ・イン・エネルギー・アンド・エンバイロメンタル・デザイン）と、米国ニュー・アーバニズム議会及び米国自然資源保護協議会が共同で策定しているものです。

具体的な項目としては、再生可能なエネルギーや資源の利用、建設機械のバイオディーゼルの利用、カーボンニュートラル¹技術の採用、効率的な雨水管理、屋内外への揮発性有機物質排出を減少する高性能空調システムの採用、歩行者優先の街づくり、車輛減少のためのゴンドラなどによる代替交通網の整備などの項目が設けられており、実際の建設作業、完成後のオペレーションに至るすべての段階で環境への負担を軽減することが求められます。

「周辺街区開発のための LEED 認定基準」を採用した官民共同の開発事業としては、米国内で最大規模となる同プロジェクトにおいては、自治体が地元の開発業社と共に「環境担当委員会」を結成し、法改正や新技術の導入または著名人を招いての講演などを通じて、コミュニティに対する啓蒙活動を積極的に展開していく予定です。

📍 コロラド州について

コロラド州は米国の中でもアメリカ開拓の歴史を色濃く残す州です。年間晴天率 300 日を誇り、3 千メートル級の山々が連なるロッキー山脈国立公園をはじめとする 4 つの国立公園を擁しており、恵まれた自然の中、冬はスキー、夏はリゾートと米国内外から観光客で賑わっています。又コロラドはトレッキングやハイキングなどアウトドアやスポーツ愛好家にファンが多く、人と自然の距離を縮める、不思議な力のあるデスティネーションです。自然に恵まれた土地のため、パウダーなどを始めとして州全体に環境保護や保全に対する先進的・画期的な取り組みも多く見られます。

～ 当リリースに関するお問い合わせ先 ～

コロラド州観光局 日本事務所（アピアレップス・マーケティング・ガーデン株式会社内）
担当: 米田、反町（ソリマチ） TEL: 03-3225-0008 / FAX: 03-5363-1118

¹植物由来の原料の場合、燃やして炭酸ガスを放出しても、その炭酸ガス中の炭素は元来植物が光合成によって大気中の炭酸ガスから取り込んだものなので、大気中の炭酸ガス濃度は常に一定に保たれる。このような炭素循環の考え方をカーボンニュートラルという。